

## 令6年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容 具体的な方策	校内評価（年間）			学校関係者評価 (2月17日実施)	総合評価（3月26日実施）		
				評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
				評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程 学習指導	○各教科等の目標をふまえ、一人ひとりの教育的ニーズに応じた、学習指導を行う。  ○カリキュラムマネジメントの視点をふまえ、教育課程の評価・改善に取組む。	①子どもが主体的に学ぶために、よりよい授業づくりと授業改善を行う。  ②各学部の育てたい力をふまえ、教育課程のつながりと実施状況を検証する。	①-1児童・生徒の「わかった・できた」を引き出す手立てをチームで検討し、授業づくり・授業改善の取組を、一人一授業公開する。 ①-2一人一台端末の効果的な活用方法を検討する。  ②各学部の育てたい力と教育課程を全学部で共有し、実施状況を評価する。	①-1より良い授業づくりを通して、主体的な学びを引き出すことができたか。  ①-2一人一台端末を活用し、主体的な学びを引き出すことができたか。  ②めざす子ども像と育てたい力にむけ、教育課程のつながりを検証できたか。	①-1学部研究を通して、授業改善に取り組み、子どもが自ら行動する姿を引き出すことができた。 一人一授業公開24件 ①-2端末の操作を学ぶことから、通信で場面をつなぎ、発表することで、共同した学びに広がった。 ②各授業と学部の育てたい力の繋がりを授業計画に明示して取り組んだ。各教科の位置づけ、授業時数等、小中高のつながりを考慮した枠組みを検討した。	①-1職員一人ひとりの授業力向上が課題である。個々に焦点化した授業改善の機会として、一人一授業公開を推進する。 ①-2発信の手段として活用を進める必要がある。情報の取扱いの知識についても、学習を進めていく。 ②各学部の育てたい力の共有を進めながら、教育課程の繋がりについて検証を継続する。知能並置に向け、教育課程の枠組みから内容に進めていく。	●保護者アンケート 「わかった・できた」と思える授業の経験を重ねている。 <b>肯定的な評価 88%</b> パソコン・タブレット等を活用したわかりやすい授業が行われている。 <b>「わからない」 45%</b>	①学部研究を通して、チームによる授業改善が進み児童・生徒の「わかった・できた」を引き出すことが出来た。職員一人ひとりの授業力、情報端末の活用向上の機会確保が必要である。  ②教育課程における、各教科の位置づけ、授業時数について、小中高のつながり等、知能並置に向け検討課題と、学部運営の基本的な考え方を整理した。	①職員個々に焦点化した授業改善の機会として、一人一授業公開を継続し、推進する。情報端末の操作、授業における活用について、「知る・使ってみる、活用する」と段階的に進め、取組を発信する。  ②各教科の位置づけ、授業時数について、小中高のつながり等、知能並置に向け検討課題と、学部運営の基本的な考え方を整理した。
2	児童・生徒 指導・支援	○一人ひとりのニーズに応じた指導・支援の充実を図る。  ○教育活動を通して、人権の視点に立った学校づくりに取組む。	①一人ひとりの障害の状況やニーズに応じた学習環境と支援体制を構築する。  ②互いに意見を伝え合う風通しのよい職場環境を構築し、人権を尊重した指導や支援を行なう。	①-1医療的ケアを必要とする児童・生徒の支援体制を確実に構築する。 ①-2自立と社会参加に向けた通学支援を実践する。  ②子どもの見立て、支援方法を、専門職を含めたチームで検討し、生活年齢をふまえ発達年齢に応じた支援を実践する。	①-1安全に医療的ケアを提供する支援体制が構築できたか。  ①-2保護者や関係機関等と連携し、ニーズに応じた通学支援を行うことができたか。  ②子どもの見立てに基づく支援をチームで実践し、指導・支援に生かした。 職員研修【人権、アセスメント、不祥事防止、摂食指導、感覚と行動、身体つくり】実施	①-1医療的ケアを要する児童・生徒の支援体制を構築し、安全に実施した。  ①-2個々のニーズに応じ、スクールバスも活用した通学支援を実践した。校外歩行等を活用し、通学につながる学習を積み重ねた。  ②アセスメントに基づく支援をチームで実践し、指導・支援に生かした。 職員研修【人権、アセスメント、不祥事防止、摂食指導、感覚と行動、身体つくり】実施	①-1知的障害単独校における課題を整理し、校内外の支援体制を整えていく。  ①-2通学支援の仕組みの整備とともに、校外活動に通学を意識したねらいを位置づけ、両輪で支援する。  ②一人ひとりの課題に応じ、専門職と連携しながらチームで対応を検討し、指導と支援を進める。 課題に応じ適切な指導・支援が実施できるよう、職員研修を実施する。	通学支援等の仕組みづくりに加え、学習と関連づけ、学習が積み重ねられるよう工夫していくことが評価できる。  人権を尊重した指導・支援することを再確認し、取組を継続してほしい。  ●保護者アンケート 性別によらない「さん」付け呼称や人権を尊重した指導が行われている。 <b>肯定的な評価 86%</b>	①必要とする医療的ケアを受けながら学習できる環境と支援体制を構築し運用できた。対象者増や校外での実施について課題を整理する必要がある。 日々の学習に通学につながる学習を位置づけることで、学習の積み重ねができた。  ②職員研修で得た基礎的な知識を活用し、チームで検討することにより、児童生徒の生活年齢をふまえ発達年齢に応じた支援を実践できた。	①知的障害単独校における医療的ケア実施の課題を整理し、校内外の支援体制を整えていく。 通学支援の仕組みの整備とともに、校外活動に通学を意識したねらいを位置づけ、両輪で支援する。  ②課題に応じ適切な指導・支援が実施できるよう、職員研修を実施する。互いの意見を尊重し、建設的な意見交換ができるよう、人権研修および職場ミーティングを継続する。
3	進路指導・支援	○一人ひとりのニーズや適性に応じ、自己選択・自己決定のための継続した指導・支援に取組む。  ○一人ひとりの自立と社会参加に向けた、主体的な取組を支援する。	①自己選択・自己決定ができる子どもに育てることをめざした進路指導を推進する。  ②教育活動を通して、職業観や勤労観を醸成する。	①自己実現に向け、進路選択・決定ができるよう、情報提供や体験・実習のコーディネートを段階的に進める。  ②生活年齢に応じ、役割を担うことや、地域に貢献する活動を計画的に実施する。	①本人・保護者、教職員への情報提供、体験・実習等のコーディネートを通して、主体的な取組が支援できたか。  ②教育活動を通して、職業観や就労感の醸成を導き出せたか。	①情報提供や見学・実習のコーディネートをとおし、選択することや決定することを支援した。 進路ハンドブック配付、保護者見学会10回、職員見学会3回、進路学習会10回  ②係活動や作業学習をとおして、働くための基礎となる学習を行った。校内で学習したことと実習や校外活動で実践し学びを深めた。	①一人ひとりのニーズについて、学校だけでなく、保護者や関係機関と共通理解を図りながら自己の意思を反映した選択・決定が出来る子どもに育てていく。  ②単年度や学校だけの取り組みにせず、小中高とつながった取り組みにすることや、保護者とも連携して家庭にも返していくなど、般化するように進めていく。	一人ひとりのタイミングに合わせ、自己実現に向けた選択ができるよう、情報提供と基礎的な学習を積み重ねることが重要である。  ●保護者アンケート 進路見学や面談、進路説明会等をとおして、保護者や児童生徒が求めている進路に関する情報が提供されていたか。 <b>肯定的な評価 85%</b>	①生徒、保護者に対し、全般的な情報や見学の機会の提供に加え、一人ひとりに応じた実習のコーディネートをとおし、選択することや決定することを支援した。自分ごととして意識づけを行うことが課題である。 ②係活動や作業学習をとおして学習したことや、実習や校外活動で実践し学びを深めた。場所や場面が変わっても、役割に応じた行動ができる子どもに育てることが課題である。	①一人ひとりのニーズに応じ、ていねいな進路指導を継続する。保護者や関係機関と共通理解を図りながら、学習会の内容や情報提供の仕方を工夫する。  ②校外活動に地域貢献、役割等の視点を位置づけ、活動を計画する。小中高と取り組みをつなげるとともに、家庭、実習等で般化するように進めていく。

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容 具体的な方策	校内評価(年間)		学校関係者評価 (2月17日実施)	総合評価(3月26日実施)	
				評価の観点	達成状況		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	○学校と地域の双方で連携・協働するための組織的・継続的な仕組みを構築する。	①地域との繋がりを進め、教育活動等を通じて共生社会の推進に貢献する。	①地域と繋がり、教育活動を発信することや、協働した活動を推進する。	①地域や関係機関を等と連携し、共生社会づくりに貢献できたか。	①実施結果 学校間交流5校 8回 居住地交流 小35回、中14回 地域貢献に対する児童生徒表彰(分教室) 卒業後の障害者の学びの支援事業に参加(仮想空間における作品展示と体験) 地域の作品展に出品 公民館主催行事の講師 学校公開 170名来校	①学校間交流、居住地交流の内容を共同学習に進めていく。 地域貢献における、地域と学習のニーズをマッチングし、教育課程に位置付けることで、継続した取組にしていく。	居住地交流が積極的に行われ、内容も深化していることを評価する。 特別支援教育のセンター的機能の取組を通して、地域の特別支援教育の向上に寄与してほしい。
		○地域における特別支援教育のセンター的機能の取組を推進し、共生社会の実現に向け取組む。	②地域における特別支援教育のセンター的機能の取組を推進し、共生社会の実現に向け取組む。	②地域のニーズの把握と支援を的確に行い、地域の特別支援教育の専門性を高める。	②地域のニーズに応じ、地域の特別支援教育の専門性を高めることができたか。	②校内外のニーズを踏まえた研修会の開催、地域の小中学校等への巡回相談をとおして、地域の特別支援教育の専門性を高める取組を進めた。 巡回相談 25回 講師派遣 8回 研修会 1回	②センター的機能をより効果的に発揮できるよう、本校の役割を積極的に発信する。センター的機能を担う人材育成を進めていく。	●保護者アンケート 学校は、地域、保護者、福祉機関、企業等と協働し、学校運営の推進に取り組んでいる。 <b>肯定的な評価 79%</b>
5	学校管理 学校運営	○地域と連携し、安全・安心な学校づくりに取組む。	①災害時の対応に関するマニュアルを見直し、関係機関との連携を構築する。	①-1 災害時を想定した実働的な対応マニュアルとなるよう、実践を通して見直す。	①-1 実働的なマニュアルに改定できたか。	①-1 訓練をとおして対応マニュアルを見直し、本部を中心に実践的な訓練を実施した。 避難訓練3回、児童生徒引き渡し訓練、不審者対応訓練を実施	①-1 本部の役割、初動、記録等、実際を想定しながら、実践に即した訓練を重ねる。	災害はいつ起こるかわからない。いざという時に、対応ができるよう、備えてほしい。 ノー残業デーや時間外労働時間短縮の成果を着実に上げてきていることを評価する。
		○子どもと向き合う時間確保のために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	②意識改革・業務のスリム化・効率化を図り、チームで遂行することにより、働きやすい職場環境を構築する。	①-2 関係機関や地域との連携を構築する。  ②会議の効率化、文書の簡素化、業務のスリム化を進め、ノー残業デーを徹底する。  ②-2 時間外総労働時間を短縮することができたか。	①-2 関係機関や地域との連携を構築できたか。  ②-1 児童・生徒について話ができる時間が増えたか。  ②-2 時間外労働時間月平均3%短縮 ノー残業デー達成率44%	①-2 消防、警察、藤沢市危機管理課の協力のもと、各種訓練・研修を実施した。  ②-1 会議の仕方の工夫、共有を前提とした、情報の集約と整理を行った。 ●職員アンケート 業務改善をとおして、児童生徒と話をする時間が増えた。 <b>肯定的な評価 58%</b>	①-2 被災時に連携を要する藤沢市、地域自治会との連携を進める。  ②-1 目的に応じ、効率のよい情報共有と検討の仕方を工夫する。情報の集約と共有方法を整理し、業務のスリム化、効率化を図る。	●保護者アンケート 災害時を想定した避難訓練等をとおして、安全で安心して過ごせる環境を整えている。 <b>肯定的な評価 83%</b> 欠席連絡の電子化等、事務連絡の効率化に取り組んでいる。 <b>肯定的な評価 82%</b>